

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	川崎区第3グループ(田島・浅田・小田)	評価対象年度	平成28年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住所 川崎市中原区新丸子東3丁目1100番地12	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成28年4月1日～平成31年3月31日	所管課	こども未来局 青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	H27		H28		H27		H28		
	1 田島こども文化センター ①年間延べ利用者数	25,619人	27,190人	②年間延べ利用団体数	284団体	275団体			
2 渡田小学校わくわくプラザ ①登録者数	296人	310人	②年間延べ利用者数	15,694人	17,163人				
1 浅田こども文化センター ①年間延べ利用者数	26,972人	29,359人	②年間延べ利用団体数	527団体	527団体				
2 浅田小学校わくわくプラザ ①登録者数	129人	123人	②年間延べ利用者数	9,939人	9,177人				
3 小田小学校わくわくプラザ ①登録者数	192人	204人	②年間延べ利用者数	14,449人	13,981人				
1 小田こども文化センター ①年間延べ利用者数	19,451人	16,331人	②年間延べ利用団体数	165団体	129団体				
2 新町小学校わくわくプラザ ①登録者数	151人	146人	②年間延べ利用者数	9,156人	8,562人				
3 東小田小学校わくわくプラザ ①登録者数	127人	117人	②年間延べ利用者数	8,809人	9,813人				
収支実績	単位:円								
1 収入									
指定管理料	140,304,024								
2 支出									
人件費	110,957,958								
管理費	9,227,015								
事務経費	7,206,132								
その他経費	8,788,312								
合計	136,179,417								
3 差引	4,124,607								
サービス向上の取組	運営協議会、保護者懇談会、子ども運営会議、日常的な利用者とのコミュニケーション等により、利用者ニーズを把握し、館の活動や運営に反映した。また、事業者のスケールメリットを活かした全館行事、区行事やグループ行事など、地域を越えた児童の健全育成、交流の場づくりを実施した。								

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	「仕様書」を遵守して適切な事業の実施がなされているか。	10	4	8
		「事業計画」に基づき、着実な事業の推進がなされているか。			
		「こども文化センター」の運営をすることにより、児童の健全な育成が図られているか。			
		「わくわくプラザ事業」を実施することにより、放課後児童の健全な育成が図られているか。			
	(評価の理由)	<ul style="list-style-type: none"> 仕様書及び事業計画書に基づき、こども文化センター、わくわくプラザ事業を適正に実施した。 田島こども文化センターでは、老人いこいの家と連携して「クッキングおふくろ」を開催し、高齢者と若い子育て親子の交流を図ったほか、地域教育会議や運営協議会との協力のもと、臨港中学校美術部の生徒が考えた原案図をもとに、こども文化センターの壁面に絵を描くなど、地域との交流・協働の向上を意識した特色ある事業を実施していた。 渡田小学校わくわくプラザでは、大学生ボランティアの協力で、工作を中心とした活動を3か月間にわたり行い、小学生が普段接することの少ない大学生との触れ合いなど、多世代の交流を意識した特色ある事業を実施していた。 浅田こども文化センターでは、多様な事業実施のほか、玄関ロビーに机とイスを配置し、飲食や友人との談笑等の憩いのスペースとして活用するとともに、図書室を中学生や高校生が自主学習する場として整備したところ、学習目的での利用が増えるなど、利用者のニーズを把握し、限られたスペースを有効に活用した日常的な施設運営の活性化を図っていた。 浅田小学校わくわくプラザでは、小学校周辺やこども文化センター周辺の清掃活動を実施するとともに、子どもたちと一緒に商店街で行事等の買い物をするなど、地域との交流を深め、わくわくプラザへの理解を深める取組と地域による子どもの見守り体制の強化を意識した取組が図られていた。 小田こども文化センターでは、高校生7名のボランティアと地域住民との協力によるもちつき大会を実施し、若い世代と地域住民の多世代の交流を意識した事業を実施するとともに、新町小学校わくわくプラザや東小田小学校わくわくプラザでは、子ども運営会議を中心として、子どもの意見の尊重と自主性の向上を意識した取組が図られていた。 これらの取組を通じて、3館の年間利用者数が約830人増加した。 			

サービス向上及び業務改善	利用者ニーズ	サービス向上のために、利用者等の意見を適切に把握しているか。	10	3	6
		利用ニーズを把握し、事業実施に適切に反映しているか。			
		苦情対応など、利用者への適切な対応が図られているか。			
	特別な配慮を要する利用者への対応	特別な配慮を要する利用者への対応が適切になされているか。	5	3	3
	学校及び行政機関との連携	事業の実施にあたり、学校及び行政機関、地域の団体等との連携がなされているか。	10	4	8
	施設・事業の広報	施設を知ってもらい、事業の充実を図るための周知の活動等に取り組んでいるか。	5	3	3
	運営協議会の実施	「こども文化センター運営協議会」が適切に運営・開催されているか。	5	3	3
保護者懇談会の実施	「わくわくプラザ保護者懇談会」が適切に運営・開催されているか。	5	3	3	
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校及び行政機関との連携については、館内・プラザ内におけるスタッフの情報共有とともに、必要に応じて、学校・地域みまもり支援センターと情報共有を図り、いじめや虐待など、気になる子どもの対応について、学校や保健・福祉の専門機関との連携が図られていた。 さらに、今後の協力体制の促進に向け、ハローワーク川崎との連携を深め、マザーズコーナーの担当者による訪問相談会を実施するなど、新たな連携先を獲得し、利用者の幅広いニーズに応えるための事業展開を行っていた。 利用者ニーズの把握、特別な配慮を要する利用者への対応、施設・事業の広報、保護者懇談会の実施については、グループ全体を通して、仕様書及び事業計画書に沿った事業を適正に実施していた。 					
組織管理体制	適正な人員配置	「児童福祉施設の設置及び運営の基準に関する条例」第54条に基づく職員配置がなされているか。	10	3	6
		「仕様書」において定める職員配置の最低基準が順守されているか。			
		「川崎市公契約条例」が遵守されているか。			
	職員の研修体制	職員の資質向上のために必要な研修が実施されているか。	10	4	8
職員が研修に参加しやすい仕組みづくりがなされているか。					
個人情報等の取扱	法人として、個人情報保護に関する規定や体制を整備しており、適正に取り組んでいるか。	5	3	3	
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 人員配置については、こども文化センター及びわくわくプラザにおいて、適正に職員が配置され、利用児童数や特別な配慮を必要とする児童などの状況に応じて、適時、職員を加配するなど、円滑な事業運営が行われた。 研修体制については、法人全体の10年以上にわたる青少年分野における人材育成のノウハウを活かし、全市・グループ・館ごと、職位ごと、分野ごとの研修など、体系的・計画的かつ多様な研修が行われていた。 また、川崎区全体では、神奈川県警察本部相談・保護センターによる青少年の犯罪や非行に関する研修を実施するとともに、第3グループ全体で、川崎区保健福祉センターによる感染症予防に関する研修を実施した。 さらに、日ごろの適切な施設運営において課題となる事項を把握の上で、研修を企画・実施することにより、職員の資質向上にも繋がっていた。 個人情報等の取扱については、個人情報保護マニュアル、取扱規定と管理体制が整備されており、個人情報の取扱いが適正に行われていた。 					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な施設利用のため、施設や設備の保守・点検を適切に行っているか。	5	3	3
		必要に応じて適切な維持・補修がなされているか。			
		備品等の管理が適切になされているか。			
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保するための体制が整っているか。	5	4	4
		事故等が発生した場合に迅速かつ適切な対応が図られているか。			
		事故防止や感染症予防対策等が事前に図られているか。			
防犯対策及び災害時の対応	施設の防犯対策に工夫がなされているか。	5	4	4	
	災害発生時に備えた対応が図られているか。				
	災害発生時に適切な対応・行動ができる取組がなされているか。				
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設・設備の保守管理について、グループ全体を通して、仕様書及び事業計画書に沿って適正に実施していた。 利用者の安全確保については、グループ全体を通して、仕様書及び事業計画書に沿って適正に実施されていたほか、田島こども文化センターにおける「地域ふれあいの旅・ハロウィン」では、子どもと地域住民との交流による見守り体制の強化に取り組んでいた。 また、こども110番協力施設を中心に巡回したことにより子どもの防犯意識が向上するなど、地域に積極的に働きかけ、地域全体の見守り体制、防犯体制の強化を行っていた。 防犯対策及び災害時の対応については、グループ全体を通して、仕様書及び事業計画書に沿った適正な運営がなされていたほか、田島こども文化センターでは、津波の発生時に、こども文化センター及びわくわくプラザの子どもが学校の校舎3階に避難することを学校と確認するなど、学校と積極的に連携した、また、海に近く、海拔の低い地域の特徴を考えた防災対策の強化に取り組んでいた。 					

収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	法人の規定等に沿った適切な会計処理と金銭管理がなされているか。	5	3	3
	効率的・効果的な支出	「事業計画」に沿った適切な支出がなされているか。	5	3	3
		効率的な執行に努め、経費削減に具体的に取り組んでいるか。			
		支出に見合う効果が効果が得られており、サービス水準も確保されているか。			
(評価の理由) ・金銭管理・会計手続については、適正に行われている。 ・受託20グループ52施設を管理している運営法人のスケールメリットを活かし、一元的な臨時職員の雇用・管理、警備等業務委託の一括契約、消耗品や備品の一括購入等の取組により、効率的・効果的な経費の支出がなされている。					

4. 総合評価

評価点合計	68	評価ランク	C
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

こども文化センター及びわくわくプラザの管理運営を長年に渡り行ってきた経験を活かし、安定した施設運営を行っており、利用者の安全や災害時の対応に配慮した備えしつつ、適正に業務を遂行している。
また、各館が培ってきた地域住民や関係機関との関係は非常に良好であり、地域との関わりを大切にした事業運営が行われていることから、若い世代のボランティアとの協力や学校・地域みまもり支援センター等との密な連携などを図りながら、地域社会全体で子どもを見守り育てる環境づくりに向けた取組を進める必要がある。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

地域社会全体で子どもを見守り育てる、安全・安心な居場所となるよう、環境整備や職員のスキル向上に努め、職員と子どもが顔の見える関係を築き、中高生を含めた様々な年代の子どもたちにとって、居心地のよい場となるよう努めること。
事業の企画・実施にあたっては、事業の実施回数(アウトプット)と参加者数(中間アウトカム)だけを意識するのではなく、事業を実施した結果、子ども・若者の成長や地域交流の促進にどのように寄与しているのか(最終アウトカム)を考慮していくことに努めること。